



浜田医療センターDMATチームが参加してきました



傷病者1名が赤（最優先治療群）エリアに運ばれました



つづいて、黄（非緊急治療群）エリアに運ばれた傷病者の処置にあたります



傷病者が多く運ばれたため手分けして処置にあたっています

2025年度 浜田地区連絡会 総合事故対応訓練

診療看護師

田向 宏和

2025年10月9日にJR西日本浜田鉄道部による総合事故対応訓練に参加しました。列車と車の衝突事故を想定し、多数の傷病者への対応訓練でした。外傷患者が予想されるため、処置に必要な物品を事前に準備し、野外での活動のためヘルメットと安全靴を着用しました。

医師1名、看護師1名、業務調整員2名の編成でチームを組み、出勤要請があったのちに、現場へ向かいました。現場到着後は、消防の現場指揮所に向かい現場の状況を確認し業務調整員1名を指揮所に配属し、搬送された患者が現場近くの救護所に集まるためそこの活動を開始しました。

多数傷病者が発生した場合、トリアージが行われます。トリアージとは、災害時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病者の緊急度や重症度に応じて治療の優先順位を決定することです。列車内で活動している消防隊によってトリアージされたのちに、救護所に搬送される重症患者を中心に必要な医療処置を行いました。救護所はあくまで一時的な待機場所なので、迅速に病院へ搬送することが重要です。医療処置と同時並行して患者搬送手段を指揮所の業務調整員と連絡し、患者の優先順位をつけます。搬送手段は救急車だけでなく、浜田医療センターで受け入れできなければ、広域搬送が必要になるためドクターヘリの要請も必要となります。そのため、救護所でもトリアージをして患者選定を行い、指揮所と連携して搬送先を決めます。

今回はチーム編成で看護師が1名でした。対応できる患者数も限られており、多数傷病者が出る事故では多数のチームでの対応が必要だと実感しました。また、事故現場での対応では患者を受け入れる病院側として現場と情報共有を行い、重症および中等症の患者をそれぞれ何人受け入れできるのかを考える必要があります。受け入れをするためには、救命救急センターや必要に応じて手術室の準備もしなければならないため、そういった想定訓練も今後の課題として考えていく必要があると思います。そのためには今回のような訓練を通して、各機関と密に連携が取れる関係性を築いていくことが重要だと感じました。